

このたびの令和6年能登半島地震により、お亡くなりになった方のご冥福とご家族の方々へお悔やみ申しあげます。また、今もなお、被害を被った皆様は大きな不安を抱えていることと思います。心よりお見舞い申し上げます。

2月14日～2月17日の4日間、北海道 DWAT として能登半島にあります「志賀町（しかもち）」の志賀町文化ホールと志賀町地域交流センターの2か所に伺いました。志賀町は、能登半島の概ね中間にあり、人口は約18,000人です。避難所周辺の地震の被害は地盤沈下や道路の亀裂、家屋の傾き、瓦屋根の損壊などが目視できました。住宅に住んでいる方も多く、比較的、被害の少なかったように見えますが、家の中は片付けが大変という話もあり、実際の被害状況は不明です。

避難所の運営は愛知県の方が担当され、福祉的支援は静岡 DWAT と北海道 DWAT が共同で担当しています。

我々がおこなったことは、ニーズ調査、相談窓口対応、体操等の支援、福祉的視点からのアセスメント、避難所が閉鎖になった場合の方向性の確認でした。

避難者の心境を考えると、なかなか踏み込んだことを伺う難しさもあり、実際に自宅の片付けが行えても余震が怖くて戻れないというお話もありました。

夕方には志賀町役場に集まり、DHEAT（災害時健康危機管理支援チーム）が中心になり、DMAT（災害派遣医療チーム）、JMAT（日本医師会災害医療チーム）、JRAT（日本災害リハビリテーション支援協会）、DCAT（災害派遣福祉チーム）、DWAT（災害派遣福祉チーム）、役場の職員の方々と一緒に避難所や在宅者の支援の活動報告など行い、必要な支援のマッチングも行っていました。

僅かな日数ですが、支援の大切さと支援の難しさを改めて感じる機会になりました。

今後も、支援の輪を繋げていき、被災された方が一日も早く安心して暮らせる日が来ることをご祈念いたしております。